

葬祭カウンセラー認定
基礎講座テキスト 2018.4.8-9

第48期

『葬祭カウンセラー認定テキスト』

Funeral-counselor textbook approved
by Japan Funeral Academy Association.



アカデミー教務研究室 近隣の千鳥ヶ淵の桜 (2017. 4. 撮影)



監修

「葬祭学」創設推進プラットフォーム
日本葬祭アカデミー教務研究室

Copyright (C) 2018 Japan Funeral Academy Association All Right

もくじ

はじめに 葬祭カウンセラーとは何か？

研修①

【葬儀概論】 葬祭学基礎

- 1：お葬式の変化と現状を理解すること・・・・・・・・・・ 1
- 2：『不安』を具体的に解明する・・・・・・・・・・ 5

研修②

【葬祭知識①】 葬祭学基礎

- 3：お葬式とは何か？・・・・・・・・・・ 11
- 4：お葬式の流れと工夫・・・・・・・・・・ 17

研修③

【葬祭知識②】 葬祭学基礎

- 5：戒名や墓地の基礎知識・・・・・・・・・・ 21
- 6：お墓について・・・・・・・・・・ 25

研修④

【葬祭ビジネス 今後のメモリアルビジネスの展望】 葬祭学ビジネス

- 7：葬祭サービスとは何か・・・・・・・・・・ 29
- 8：悲嘆のプロセス・・・・・・・・・・ 30
- 9：フューネラル企業業態のポジショニング概要・・・・・・・・ 32
- 10：これからのフューネラル・ビジネス展望と施策・・・・・・・・ 34
- 11：事前対応ツールとしてのマイ・エンディングノート・・・・・・・・ 35
- 12：マイ・エンディングノートの内容（実物参照）・・・・・・・・ 36
- 13：事前の心づもりが大切・・・・・・・・・・ 37
- 14：お葬式の実用知識・・・・・・・・・・ 41

あとがき 儀礼の「品質」とは何か？
参考文献

葬祭カウンセラーとは何か？

人生の中で、唯一当事者としてがかわることのできないのが「葬送儀礼」です。アカデミーでは、死を「不在の確定」と定義しています。

死は常に「他者」の手によって、対応や祭祀がなされ、これまで地域共同体や「家」がその全体を担ってきました。

風土が宗教を取り込み、作法が習俗化しそれは暗黙の文化として受け継がれてきました

現代では生活環境や家族意識の大きな変化があります。ともすればそれによって、葬祭供養においても、その意味や意義を損なう合理性が拡散しています。

「葬祭」とは、葬送儀礼（死者供養）と祖先祭祀（先祖供養）を合わせた総称です。今でも私たちは、独自の「死生観」を語ることなく、感性として持っています。それは、霊魂観であり、他界観、そして再生観に集約できます。

これらは日本人の基層で共有され、無意識の言葉づかいや生活習慣の中で、こだわりながら過ごしています。

「葬祭カウンセラー」はまず「葬祭」の本質を学び、その価値を自覚した人材です。感性や情緒を豊かにし、人生の摂理にも触れて、葬祭への理解を育むようにしましょう。「周りで支え合う」という共感をもって葬祭知識を学び、考え、思うことが大切です。

『葬祭を学んだ』という誇りと自信をもって、それぞれの職域の中で役立ててもらいたいものです。

平成30年4月8日

日本葬祭アカデミー教務研究室
二村 祐輔



昔の葬送風景 富山県中新川郡 上市町